

2008年3月17日

JOMON あかでみい 山田 学©

TQ 禅問答

経営学の巻

- 師匠 おまえに 10 年前に出した宿題は解けたか。
山田^{としお}俊郎さんが開拓した TQ 技術で儲ける方法を考えよ、というあの宿題。
- 弟子 はい、はい、先生！ とびきりの方法を考えつきました！
- 師匠 おまえは、まだまだ、だめじゃな。
- 弟子 ? まだ何も説明していません。
- 師匠 TQ 技術は儲らん。わしはおまえにそういう答を期待しておったのじゃ。
- 弟子 ...
- 師匠 TQ 事業体の売上・利益・資金繰りは将来、大いに飛翔するであろう。
- 弟子 だったら、儲るということじゃないですか！
- 師匠 わしの話をよく聴きなさい。
TQ 事業体の経営者は巨額の役員報酬を得ることもあるであろう。
- 弟子 ...
- 師匠 ただし、TQ 事業体の経営者は日本国の労働者の平均あるいはそれ以下の生活費を受け取り、残りの役員報酬の大部分を TQ 事業体の資本金に振替えるであろう。その資本金に対する配当金を貧困階級への信用寄付に振替えるであろう。信用寄付とは、貧困階級の健康生活のために活用されることが保証されている、信用ある寄付だ。
- 弟子 何だか、夢がありません ...。
- 師匠 残念じゃ。おまえも、まだまだ、資産増殖思想という、浮世の流行りの浅い夢にとらわれておるのじゃな。
- 弟子 ...
- 師匠 そもそも TQ 技術は、何のためにあるのかな？
- 弟子 それについては、先生が以前に、健康と住居と食物流通と農業と環境だ

と、おっしゃっていました。

師匠 そうだ。

弟子 保健と看護と医療のうち、TQ 技術は看護にあたることも、おっしゃっていました。

師匠 その通りだ。

浮世の流行りは、まず医療があり、次に看護があり、最後に保健がある。わしの理想は逆だ。まず保健があり、次に看護があり、最後に医療がある。

そしてまた、保健・看護・医療以前に、健康平和な保育と教育が必須だ。

弟子 ...。何となくはわかります。

師匠 TQ 技術を知っている人は、その現象に驚くことも多い。

弟子 そうです。そうです。

師匠 じゃが、TQ 技術にとらわれてはいかんぞ。TQ 技術のみに頼ってはいかんぞ。

弟子 ? 先生のおことばとも思えない ...。

師匠 ははは。わしは欲が深いのじゃ。健康平和欲という欲が深いのじゃ。

健康平和な保育・教育・保健・看護・医療の中において、看護の重要な一部分として、TQ 技術の長所を活し短所を補いたいのじゃ。

弟子 はあ ...。

師匠 ところで、商人道とは何かね？

弟子 はあ？

師匠 より多くの民衆により早く、最高品質最低価格の商品を提供するシステムを設計する。予想実験によりそのシステムを改善し改革していく。わしはものの本を読み、そういうことだと考えた。

弟子 はあ ... 先生は商いの本まで読みますか。

師匠 わしの理想は、健康平和な保育・教育・保健・看護・医療という商品の最高品質最低価格。いわば保健商人道。そういう中において TQ 事業体の経営を考えたい、ということじゃ。

弟子 いつごろ実現しますか。

師匠 さて、わしにもわからん。

健康平和な保育・教育・保健・看護・医療の最高品質最低費用。これを経営学の用語で言いかえると、労働力生産の最高品質最低費用。

弟子 あわわ。難しすぎる ...。

師匠 あっはっはっ。まあ、茶でもすすりながら、腰を落ち着け、ゆっくり想いをめぐらしなさい。

- 弟子 遠慮なく、お茶をいただきます。
- 師匠 TQ 事業体の経営者たるもの、自身の労働力を生産するにあたり、その最高品質最低費用を追求する。自身が模範となる。だからあえて、日本国の労働者の平均あるいはそれ以下の生活費のみを受け取る。そういうことじゃ。
- 弟子 先生は、立派な方でございます。
- 師匠 あらら、少し言いすぎてしまうた。わしも煩惱が多い人間じゃて、あまり偉そうなことは言えん。ただし、理想を想定するのは自由じゃ。
- 弟子 理想を想定するのは自由ですね。
- 師匠 TQ 事業体の経営者の役員報酬をわざわざ巨額にし、その大部分を TQ 事業体の資本金に振替えるのは、現実論の経営権を確保するためだ。もっとも、諸制度が改革され、もっと別の方法により現実論の経営権を確保することが、より望ましい。
- 弟子 そういことですか。
- 師匠 そもそも禅は、中国や日本において、健康平和生活の模範を追求した文化だ。TQ 技術という次世代生命技術の経営も、禅という文化の復古維新として設計したい。わしはそう想うのじゃ。
- 弟子 なるほど。恐れ入ります。
- 師匠 まあ、理想の理想として、わしの祈りと誓いと願いを伝えよう。
- 弟子 はい。
- 師匠 世界全人民の健康生活。それを祈ります。
保健の規律と技能の発達。それを誓い願います。
健康平和学の発達。それを誓い願います。
保健商人道の発達。それを誓い願います。
- 弟子 どこかで唱えたことがあるような感じもいたします。

酵素活性場の巻

- 弟子 ところで、先生、TQ 技術の原理を説明してください。
- 師匠 申し訳ない。正直、わしにもまだ、よくわからん。
ただし、現実論の学問として、わしは誠心誠意の対応を心がけておる。
こうそかつせいば
酵素活性場という仮説を、わしは立てておる。
- 弟子 わたしも物理学や生理学をきちんと勉強していますが、酵素活性場という概念を知りません。
- 師匠 それはその通り。物理学と生理学の世界伝統を慎重に考慮し、わしが現

実論として仮定した概念なのじゃ。

弟子 TQ 技術の原理の解明が、現実論の学問の新しい開拓につながる、ということですか。

師匠 そう、そう。よく理解してくれた。

TQ 技術をめぐっては、空間を超えて影響がある、場^ばという概念が欠かせない。しかし、磁場など、今までの物理学で規定している場とは、明らかに種類の異なる場が、そこにあるのだ。そしてその未知の場は、生命の反応の触媒である、酵素を活性化することに、関係しているようなのだ。

弟子 だから、そのまま、酵素活性場と呼ぼう、ということなのですね。

師匠 そう、そう。わしはおまえのような話し相手がいてうれしい。

TQ 技術に接していると、水の物性や酵素の物性は、まだまだ、わかっていないことが多い。西洋学問においても、東洋思想においても、まだまだ、わかっていないことが多い。ひしひしと、そう感じる ...。

弟子 TQ 技術は、神や仏と関係がありますか？

師匠 まったく関係ない。客観的な物理現象であり、生理現象である。

弟子 TQ 処理した製品は、どういう成分を含んでいますか？

師匠 どういう成分を、という問いかけそのものが、まちがっておる。

弟子 ？

師匠 考えてもみなさい。

食塩であれ、炭酸カルシウムであれ、アルミであれ、ステンレスであれ、瀬戸物であれ、ガラスであれ、銀であれ、金であれ、その他の素材であれ、それらを物理的に TQ 処理することにより、それらの製品は同じ効能をもつようになる。これらの素材に、どういう共通の化学的成分があるというのだ？ TQ 処理した製品を、徹底して検査されたら、よろしい。共通の化学的成分など、発見されないはずである。

弟子 ならば、どうして共通の効能がありますか？

師匠 とても良い質問だ。

わしも古今東西の文献を参照しつつ、徹底推理してみた。

すべての素材に共通するのは、陽子・中性子・電子じゃが、そこまで細かく考えずとも、原子核、あるいは原子核を構成する特定部分が、特定の立体模様を成すとき、共通の効能があるのではないか ... ？

弟子 そこに未知の物理的な生理的な原理を仮定しなければならない、ということですか ... ？

師匠 そうということじゃ。そうということじゃ。

専門家向けには、JOMON あかでみいサイト「理念集」画面に「原子転換論」という論文を公開しておく。わしの最新の推理であり、正直、これ以上のことは、まだ、わしにもわからん。

弟子 適当なもつともらしい説明をくつつけて、とにかく TQ 技術を売ってしまつては、どうですか？

師匠 バカもん!!

弟子 ひゃあ。

師匠 まやかしの議論が横行している今、わしのように、現実論の学問として、とことん誠心誠意の対応をする人間がいなければ、人間社会は救われな
いではないか！

弟子 申し訳ありませんでした。

師匠 わしは、TQ 技術の営業に関しては、消費者運動に支持される水準をめ
ざしておく。

弟子 はい。

師匠 中国の中医学の〈気〉という概念は、いいところに接近していると想う。
じゃが、西洋学問のような厳しい仮説実験を経ていないのも、事実じゃ。
酸素の原子核というもの ... そこに何か大きな秘密があるのでないか ...
TQ 製品に皮脂が付くと、効能が落ちることがある。わしは、水と油の
関係に、深い興味がある ... ただし、水と空気と油は、どこかで連関が
あるのでないか、という気がしないでもない ...

弟子 先生は、そのように、徹底推理のまっ最中なのですね ...

師匠 そうということじゃ。そうということじゃ。
こういうことを深く話しあえる相手が、ぜひともほしいところじゃ。

弟子 わたしもさらに、学問を深めます。

師匠 TQ 技術は日本人の山田俊郎さんが発明した。これを深めていくと、日
本文化の「雪月花」「花鳥風月」という、あるいは世界最高水準の美意
識が、認識学として、生理学として、物理学として、つまり現実論の学
問として、解明されていくのじゃなかろうか ...。

弟子 21 世紀日本の貴重な文化、ということですね ...。

師匠 少子高齢化のこれからの日本国。死にそこないの老病大国では破産する。
TQ 技術の酵素活性場も深く究め、日本国が仙人大国になる日が来ない
もんかのう。

弟子 仙人大国とは、おもしろい。

師匠 ある教育学の先生が、指摘している。
植物は光がほしい。動物は食がほしい。人間は自由がほしい。

弟子 う一む。健康平和学の根底です ...。

師匠 思想においてもっとも大切なことは何か？

弟子 ...

師匠 とらわれるな。はからうな。

架空論の学問にとらわれるな。架空論の規範にはからうな。

しだいに現実論の学問を創出せよ。しだいに現実論の規範を確立せよ。

人民ひとりひとりの認識においてそれを実行するのじゃ。そういう永い永い道のりこそが健康平和社会への道なのじゃ。

弟子 う一む。う一む。

師匠 人民ひとりひとりにおいて現実論の学問と現実論の規範が発達してこそ、人間の自由の拡張なのだ。

弟子 う一む。う一む。

規律の巻

弟子 先生。どういう規律が善い規律ですか。

師匠 ほお。おまえもちっとはまともになってきたのう。

では、教えさせていただこう。

弟子 はい。

師匠 善い規律はふたつある。まず第一に認識。

すべては必然なのだ。それが苦しみ悩みであれ、楽しみ悟りであれ、すべては必然なのじゃ。あとは人間側の問題だ。すべての現状をありがたく認知する規律があれば、健康平和になり、不愉快に現状を軽視する習慣が残っていれば、病的戦争のままだ。

不愉快に現状を軽視する習慣から、現状をありがたく認知する規律へ。

人民ひとりひとりの認識においてこれを実行することが、すなわち、健康平和革命なのじゃ。

弟子 論理は簡単ですが、実行はとても難しいのではないのでしょうか。生活や人生のさまざまな事態を想定すると ...

師匠 あたりまえじゃ。だから修業と言う。

弟子 恐れ入ります。

師匠 次に第二は呼吸。認識を支える呼吸だ。

現状をありがたく認知する規律を支える、健康平和な深い呼吸の規律があれば、まさに健康平和になり、不愉快に現状を軽視する習慣を助長する、病的戦争な浅い呼吸の習慣が残っていれば、まさに病的戦争のまま

だ。

病的戦争な浅い呼吸の習慣から、健康平和な深い呼吸の規律へ。

人民ひとりひとりの呼吸においてこれを実行することが、まさに健康平和革命なのじゃ。

弟子 論理は簡単ですが、実行はとても難しいのではないのでしょうか。さまざまな社会環境やさまざまな自然環境を想定すると ...

師匠 その通りじゃ。重ねて言う。だから修業なのだ。

弟子 はい。恐れ入ります。

師匠 現状をありがたく認知する規律と健康平和な深い呼吸の規律。

この保健の根本を確立する。それを前提として、わしは山田俊郎さんのTQ技術を大いに広めたいな。すばらしい事業になると思うよ。

弟子 夢がありますね。

現状をありがたく認知する規律 健康平和な深い呼吸の規律